

ふくまちヒロバラボの各回の内容

2025年（令和7年）12月1日

福山市 企画財政局 福山駅周辺再生推進部 福山駅周辺再生推進課

1-1. テーマ

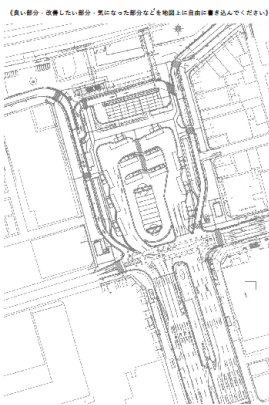
『駅前広場を知って、未来を描いてみよう』

駅前広場の現状を把握し、将来の駅前広場での過ごし方やシーンについて考える。

1-2. 開催内容

- ① 市の説明・・・駅前広場再整備の目的、議論経過、駅前広場を考えるときのポイントなどを説明。
- ② まち歩き・・・グループに分かれて、駅前広場の現状（良い点・悪い点）を評価する。
- ③ ワークショップ・・・まち歩きの結果をグループで共有、将来の駅前広場のユーザーイメージと実現したい使い方について意見交換。
- ④ 全体共有・・・グループごとにとりまとめたものを発表。

ふくまちヒロバラボ まち歩きシート



グループ： _____ 名前： _____	
快適性・印象	よい 悪い
全体的に魅力が感じられるか	A B C D
安全に感じられるか	A B C D
清潔に感じられるか/維持管理状況	A B C D
座る場所は快適か	A B C D
メモ	
アクセス・情報	よい 悪い
様々な手段で訪れやすいか	A B C D
公共交通へのアクセスがよいか	A B C D
インフォメーションや案内板は分かりやすいか	A B C D
ここから周辺へ行ってみようと思えるか	A B C D
メモ	
利用状況	よい 悪い
あらゆる人々が利用できているか	A B C D
積極的な場の活用がされているか	A B C D
場を差しそうに使っている人がいるか	A B C D
広場ないや周囲に多様なお店やサービスがあるか	A B C D
メモ	
福山らしさ	よい 悪い
福山の歴史や文化を感じられるか	A B C D
福山ならではの産業や経済活動があるか	A B C D
福山らしいコミュニティや地域活動があるか	A B C D
まちの誇りやオーナーシップが感じられる空間になっているか	A B C D
メモ	

まち歩き結果のグループ内シェア

グループ： _____		快適性・印象	アクセス性・情報	利用状況	福山らしさ	その他 気になったこと
良い点						
悪い点						

まち歩きワークシート（ワーク1）

ユーザーイメージと、実現したい使い方は？

グループ： _____ 名前： _____

こう使いたい/こんなシーンが生まれたら素敵

誰が

どんな時に/誰と一緒に

なぜなら…（理由）

ユーザーイメージシート
（ワーク2）

1-3. (1)ワーク 1：まち歩きで出た意見

〈福山らしさ〉

- 福山城がある。
- **遺構（石垣）**が残されている。
- お土産が買える。
- 市の花である**ばら**が植えられている。

- 福山城が見えづらく、**城下町感がしない**。
- ランドマークがない。
- **コンセプト**が感じられない。
- 歴史の情報がほしい。

〈利用状況〉

- 座る場所が多いが**座っている人は少ない**。
- 駅の中はにぎわっている。
- 高齢者や外国人、意外と若い人が多い。
- **バス利用者**が多い。

- 座る場所が少ない。
- 若者が**楽しめる場所**が少ない。
- **交通だけの場所**になっている。
- 日常の営みや活動が少ない（**通過するだけ**）。

〈アクセス性・情報〉

- **新幹線のぞみ**が停まる。
- バス乗り場が広い。
- **バス**でフジグランにも行ける。
- **タクシー**が近い。

- 地上で**行き来しづらい**。
- 周辺へのアクセスや観光情報が**分かりにくい**。
- バス乗り場が広いので動きづらい。
- **自転車と交錯**する。

〈その他気になったこと〉

- 歴史を**知ると楽しい**のでガイドがあるとよい。
- 広告がほどよい。
- 飲食店が多い。
- 外国人観光客はどこから来ているのか。

- まちの成り立ちを**知る機会**がほしい。
- バス乗り場は、広場の中にある必要があるのか。
- バス乗り場が中央にあることで、大通りが見通しにくい。
- 町内会など**まちの人が使いやすい**広場になってほしい。

1-3. (2)ワーク2：実現したい使い方「未来の駅前でどう過ごしたい？」

イベント・文化体験

- ・ ストリートミュージシャンのライブや音楽コンサート。
- ・ パブリックビューイングでスポーツ観戦。

散歩・運動

- ・ 体を動かしたりトレーニングしたりできる。
- ・ 高齢者のフレイル予防教室。
- ・ 駅南北をつなぐ散歩コース。

買い物

- ・ 出張中、隙間時間ができたビジネスパーソンがショッピングできる。
- ・ 待ち時間や移動時間が潤うような、本、飲み物、お菓子などが買える。

交流

- ・ ここに行くと誰かに出会える。
- ・ 色々な世代がいて、それぞれ好きなことをしている「まちのリビング」。
- ・ ランチケーション。

くつろぎ・滞在

- ・ 芝生に座って待ち合わせや飲食をする。
- ・ 高校生になった息子が友だちと一緒にしゃべりする。
- ・ 買い物の途中に、大人はほっと一息、こどもは楽しめる。

こども・家族の遊び

- ・ こどもが走り回っても安全な空間。
- ・ 噴水や親水コーナーでこどもを遊ばせられる空間。

勉強・仕事

- ・ 上空を使って、図書館カフェや勉強スペースをつくる。

出店

- ・ 将来、出店や起業したい人に向けたコンテナポップアップストア・体験ブース。
- ・ 周辺地域のポップアップストア・体験ブース。

観光

- ・ 福山城～鞆の浦までを「まちごと美術館」にする。
- ・ 周辺観光地への出発点。

災害時の利用

- ・ 来訪者や居住者が、災害時に避難スペースや防災公園として活用できる。

誰もが使いやすい

- ・ 歩くのが難しい人、小さなこども、目の見えにくい人、耳の聞こえづらい人、日陰が必要な人など、だれでも訪れやすい空間。

福山らしさを感じる

- ・ 駅南口に降り立った時、素敵なランドスケープが広がっている。
- ・ 植栽や素材などで福山らしさを感じられる風景になっている。

1-3. (2)ワーク2：実現したい使い方「未来の駅前でどう過ごしたい？」

緑を感じる

- ・ 広い空間で緑を感じられる気持ちのよいピアガーデン。
- ・ 仕事前、帰宅前、仕事の合間などに、緑を感じながらコーヒーを飲む。

歴史・文化を学ぶ

- ・ こどもも大人も福山のことについて学べる社会見学の場。
- ・ 福山城が見えづらい駅南口でも、バスや電車の待ち時間に歴史に触れられる。

安心・安全に使える

- ・ 道幅が広く、自転車と歩行者が分離されていて、誰もが安心・安全に移動ができる。
- ・ 待っている時間も有意義に過ごせる、駅前での「絶対的な待ち合わせ場所」。

情報が取得できる

- ・ 駅前エリアやまちの情報、イベント情報などが取得できる。
- ・ 福山の産業に触れられる情報やアイテムが取得できる。

回遊

- ・ 広場周辺に買い物ができる店が増えて、広場でちょっと休憩＝駅前全体を大きなショッピングモールに見立てる。

オールシーズン（全天候型）

- ・ 気候や季節を問わず、一年中使える広場。
- ・ 暑いときに涼が取れて、寒いときに暖まることができる。



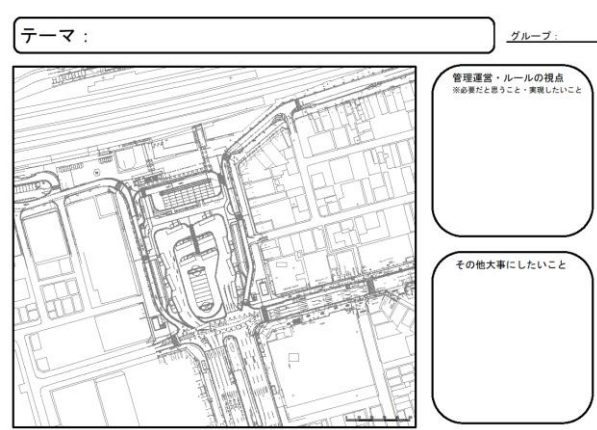
2-1. テーマ

『まちをつなぐ広場を考える』

駅前広場の機能（交通の機能と人のための広場機能）配置を考える。

2-2. 開催内容

- ① レクチャー・・・講師から、他都市の事例をもとに広場空間の必要性についてレクチャー。
- ② ワークショップ・・・「まちをつなぐ広場」、「生み出したいシーン」を実現する機能配置について、個人で考えた後、グループで意見交換。
- ③ 全体共有・・・グループごとにとりまとめたものを発表。



ワークシート



個人ワークの様子



グループワークの様子

2-3. レクチャー



講師/山下裕子さん

ひと・ネットワーククリエイター
/眺めニスト

2007年に開業した富山市まちなか賑わい広場「グランドプラザ」のスタッフを経て、2014年から“ひと・ネットワーククリエイター”として活動開始。

①ヤン・ゲールの屋外活動3分類

1. 必要活動（移動等）
 2. 任意活動（散歩・余暇）
 3. **社会活動（他者と関わる）**
- ・ 人が集まるだけでなく、社会として成り立つためには社会活動が必要である。

②公共空間を活かすために大切なこと

- ・ **人が通りかかっている場所を広場化**すること。
- ・ マーケティングと観察をすること。仮説を立てて、試していくことが大事だと思っている。
- ・ 広場の価値は「何もない」こと。だからこそチャレンジがしやすい。
- ・ **滞在時間が長くなることで経済活動が増える。**
- ・ 「何となく居られる場所」が必要：イベントで空間全てを使いきらないこと。
- ・ **地域内で経済が回ることが大事。**地元のお店がまちなかに多店舗展開できる状況をつくる。

③運営の姿勢

- ・ 「できないと言わない」をスタッフのルールにした結果、新しい利用が多発。広場の収益化にも貢献した。

④多様な人が居たいままに居られる「都市」へ

- ・ 重要なのは「一緒に居られる」場所。
- ・ **福山らしさと個人らしさが混ざる広場**があることで、結果、多様性が生まれる。
- ・ 様々な属性の人が同じ場所に居て活動することで、場所の安全やお互いの安全が保たれる。

⑤参加者に向けたメッセージ

- ・ 20～30年後の未来を見据え、**自分たちが年を重ねたときに、本当にあって欲しいまちは、どういう場所なのかを考えてほしい。**



レクチャーの様子

2-4. (1)ワーク：各グループで出た意見

グループごとに交通機能、広場機能の配置パターンは様々。「福山らしさ」「東西南北の移動」「周辺とのつながり」「情報発信」などのキーワードが上がった。



2-4. (2)各グループでの意見のポイント

●東西南北の移動

- 東西の行き来をスムーズにしたい。
- 自由に行き来できるようにしたい。
- 雨に濡れないで移動できるようにしたい。
- 歩行者・自転車を分離して、安全に通れるようにしたい。
- 南北のつながりを良くしたい。

●安全面

- 安全面の確保。
- こどもが走り回れるレベルの安全な環境。

●使い勝手

- 駅舎の1F通路も工夫して、南北を一体的に考えたい（移動面・空間面とも）。
- 可変的な使い方（可動椅子、ステージ、ベンチ、イベント広場など）。

●滞在性

- 雨よけ、暑さ対策として大屋根や日陰のある滞在空間があるとよい。
- のんびり過ごすエリアとイベントなどのオープンエリアがあるとよい。
- 癒しの木陰や水辺など。

●福山らしさ

- 南側からも福山城を見えるようにしたい。城を感じたい。
- 遺構を表現する。水辺や石垣などを配置する。

●周辺とのつながり

- 広場と周辺の店のつながり。広場へのにじみだし。
- 周辺店舗と広場との回遊をつくる。
- ハブとしての広場。
- 駅を出てすぐに視界が開けるとよい。

●情報発信

- 周辺の各ゾーンへのアクセス案内。
- 観光客にむけたウェルカム感のあるインフォメーション。

●運営面

- 掃除などの運営管理をコミュニケーションの場にする。
- 夜の治安を維持する。
- 近隣居住者への騒音・イベント時等の配慮。
- ゴミなどのマナーを徹底する。

第3回ふくまちヒロバラボ（概要）

日時：2025年（令和7年）11月8日（土）13時30分～16時00分
場所：福山城天守前 月見櫓
参加人数：30人

3-1. テーマ

『いま・これからの“福山らしさ”』

「福山城」や「ばら」といった象徴的な「らしさ」だけでなく、気候や風土、歴史、文化、人の気質などからも考えられる「らしさ」を考える。

3-2. 開催内容

- ① レクチャー・・・講師から、他都市の事例をもとに「地域らしさ」についてレクチャー。
- ② ワークショップ・・・「いま・これからの福山らしさ」について、グループで意見交換しながら、「10年後の駅前広場で見たい・感じたい“福山らしさ”」についてとりまとめる。
- ③ 全体共有・・・グループごとにとりまとめたものを発表。

ワークシート	
名前：	
<p>① 現在あなたが感じる、“福山（備後）”らしさは？ （資源、自然・気候、歴史・文化、人の気質など…）</p> <p>？すでに知られているものだけでなく、「実はこれも福山らしさでは？」 「表面化していないけどここがサッカル！」と思うこともぜひ書いて！ ？良いところはもちろんのこと、ちょっと残念…と思うところも書いてOK！</p>	<p>② 未来につくっていききたいと思う、“福山らしさ” （資源を活かして&新たに作りたい未来）</p> <p>？未来に思いをはせて、「福山ならこれができる」「福山の人はこんなふう に暮らしている」「ここが他より奥まっている」…など、なんでもOK！</p>

個人ワークシート

未来の“福山らしさ”を表現できる広場をつくろう！	
グループ：	
<p>10年後の広場で見たい・感じたい“福山らしさ”</p> <p>個人ワークの内容共有→グループで議論し、3～5つ程度に絞って発表</p>	

グループワークシート

3-3. レクチャー



講師/大藪善久さん
株式会社SOCI代表取締役

都市景観や公共空間のデザインに取り組む都市デザイナー。豊田市の新とよパークやOPEN NUMAZU streetなどパブリックスペースの可能性をひらく実践を行っている。

①地域らしさを構成する2つの視点

1. まちの構造（モノ）

- ・ **地形、歴史、骨格、個性を活かす。**例えば、城の遺構、石垣、鉄の文化、素材などの使い方が大事。

2. 日常の情景（コト）

- ・ まちならではの生活者の営み、風景、体験に「福山らしさ」が潜んでいる。

②福山の地域らしさを考えるヒント

1. 福山の「モノ」

- ・ **駅と城が最も近い、全国でも希少な風景。**
- ・ ばらによるもてなしの風景。
- ・ 城下町の地形・痕跡。

2. 福山の「コト」

- ・ 福山人の気質。
- ・ まちでの市民の日常シーン（デニム屋台、スケッチをしている人が居た）に福山らしさを感じる。

③今後の福山駅前広場に必要な3つの視点

1. 環境性能の向上

- ・ 3~10月が夏のような暑さなので、対策は最重要。
- ・ 日陰、風通し、水、木陰などを構造的に組み込む。

2. 新しい「仕組み」をつくる

- ・ 新しいルールや使い方の仕組みを入れていくことで新しい地域らしさが生まれる（沼津の事例）。

3. 市民性を活かすデザイン

- ・ 市民が好きな活動を身近なところで行える。
- ・ 市民が自由に表現することを許容する。

④参加者に向けたメッセージ

- ・ 福山には、駅と城が最も近いという強い「モノの個性」がある。
- ・ 同時に、日常の小さな風景（コト）も数多く潜在している。
- ・ 広場整備は「新しい福山らしさ」をつくる絶好の機会。
- ・ 大切なのは、「**歴史・文化からくるモノ**」と「**生活や暮らしからくるコト**」をつなげ、**未来の福山の物語を市民と共に**つくること。



レクチャーの様子

3-4. ワーク：各グループで出た意見

各グループから、広場で見たい「福山らしさ」が、多様な視点で示された。

●Aグループ

中庸（ちゅうよう）という福山らしさ

「都会すぎず、田舎すぎない」バランスの取れた広場

- 無店舗型のお店が多く、チャレンジしやすい土壌である。
- 災害が少なく気候が良い、オンリーワンの企業が多く、デニムなどものづくりや産業などのポテンシャルもある。
- 安心、安全の確保をしながら、夜も集まりやすい場所になるとよい。

●Bグループ

『ぱっとしない』を誇るまち

ちょうど良い落ち着きが魅力の広場

- 福山は何もなくて楽しくないという印象。逆にそれが落ち着いていいのではないか。
- 都会的な派手さはないが、密度感、距離感、人の規模感がちょうどよい。
- 目的がなくても、誰でもふらっと行ける場所になるとよい。
- 多様性を受け入れ、頑張らなくても行ける場所になるとよい。

●Cグループ

郷土愛と交流

福山を誇り、つながりを育む広場

- 郷土愛を感じ・育む場所にしたい。
- 福山の文化、歴史、特産物、人物を紹介できる場所を。
- まちを自慢できる場所。福山自慢グランプリのようなイベントが開催される。
- 駅前広場を利用し、義務教育の中で郷土を学び、知る体験ができる機会をつくる。
- 人を通して人をつなぐ、交流を生むことができる広場にする。

●Dグループ

青春からはじまるまちづくり

青春の思い出をつくる広場

- 10年後に高校生や若者が活躍する姿を想像し、「青春」をテーマにした。
- 若い世代だけではなく、多世代が交わる思い出の場に。
- 過ごした記憶が思い出になり、愛着につながる。
- 広場が、何かが始まる場所になるとよい。

3-4. ワーク：各グループで出た意見

●Eグループ

港町・まちごとの特色

「港町」としての歴史と多様性が共存した広場

- ・ 福山は「港町」であり、古代から海上交通の要所として発展してきたという福山のストーリーの中で広場を位置づける。
- ・ 福山は合併などもあり、まちごとにそれぞれの特色がある。
- ・ 各地域の魅力をつなぐ玄関口としての広場。
- ・ 外食文化や、パン屋の多さも強みとして考える。

●Fグループ

文化が育つ土壌としての駅前

恥ずかしがり屋な福山人が文化を育てる広場

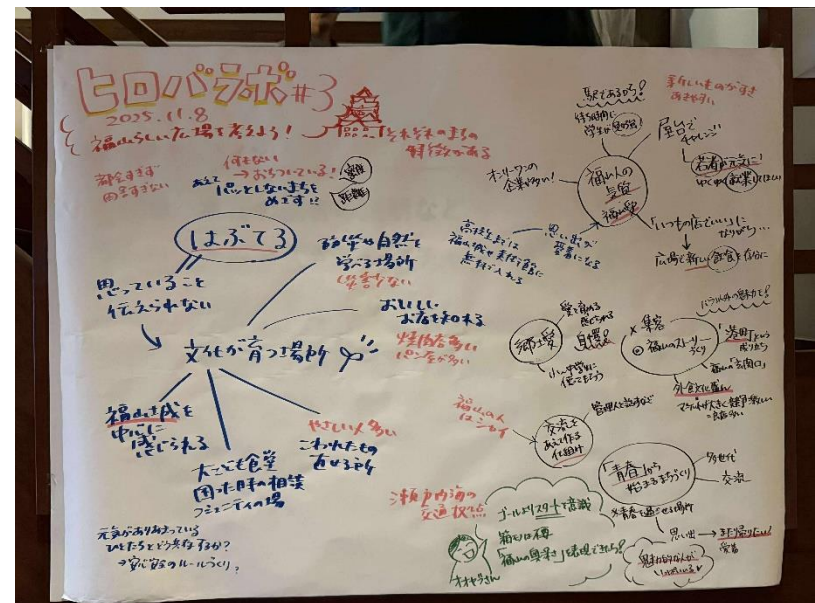
- ・ 「はぶてる」という方言にあるように、感情を内にためる福山人の気質がある。
- ・ らしさや文化を育てられる“余白”としての駅前広場に。
- ・ ふとした瞬間に福山や城を感じられる空間へ。
- ・ 子ども食堂のように気軽に相談できるコミュニティの場。
- ・ 災害学習の拠点や食を通じた語らいの場に。

●Gグループ

ひとのつながりと若者の活動

若者が集まり、挑戦と交流が生まれる広場

- ・ まじめ、温かい、飽きっぽいという気質と「いつもので良い」という気質が福山らしさ。
- ・ 人のつながりを感じる空間、学生が勉強や交流できる駅前広場がよい。
- ・ チャレンジショップなどをきっかけに人が集まり、活動が広がる場になるとよい。



当日の全体のまとめ